

# デーヴォ ガイド



2024.2.10-16

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

## 10日 月曜

ヨハネ



11:36 ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。どんなにラザロを愛しておられたことか。」

11:37 しかし、彼らのうちのある者たちは、「見えない人の目を開けたこの方も、ラザロが死なないようにすることはできなかったのか」と言った。

11:38 イエスは再び心のうちに憤りを覚えながら、墓に来られた。墓は洞穴で、石が置かれてふさがれていた。

11:39 イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだラザロの姉妹マルタは言った。「主よ、もう臭くなっています。四日になりますから。」

11:40 イエスは彼女に言われた。「信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。」

11:41 そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて言われた。「父よ、わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します。

11:42 あなたはいつでもわたしの願いを聞いてくださると、わたしは知っておりましたが、周りにいる人たちのために、こう申し上げました。あなたがわたしを遣わされたことを、彼らが信じるようになるために。」

11:43 そう言ってから、イエスは大声で叫ばれた。「ラザロよ、出て来なさい。」

11:44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたまま出て来た。彼の顔は布で包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」

ある註解者は、マルタは教理的な信仰はあるが、今ここで主のわざがあるという信仰はなかった…と

述べています。確かにその通りでしょう。しかし4日前に死んだ人が生き返るのだと、クリスチャンはいつも信じるべきなのでしょう。

それはこのように考えられるでしょう。マルタは、イエス様からおことばをいただいているのです。「言ったではありませんか。」とイエス様ご自身が言われるように、マルタは聞いていながら信じなかったし、また「臭くなっておりましょ」と言うだけで、初めは従おうとはしなかったのです。そこに課題があったようです。

私たちも、主のことばがあったなら、それがどんなに受け入れがたいようなことでも、主を信じて従ってみましょう。ラザロがよみがえるような驚くべきことが起こるでしょう。(ただし、それには聖書の裏づけが必要です)

またこの出来事で信じた者もあれば、敵に告発した者もありました。主を信じて従う者と、反対する者がいることは現実です。そのことを受け入れつつ、御国の拡大を求め、ベストを尽くしましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



## 11日 火曜

ヨハネ

11:45 マリアのところに来ていて、イエスがなされたことを見たユダヤ人の多くが、イエスを信じた。

11:46 しかし、何人かはパリサイ人たちのところに行って、イエスがなされたことを伝えた。

11:47 祭司長たちとパリサイ人たちは最高法院を召集して言った。「われわれは何をしているのか。あの者が多くのしるしを行っているというのに。」

11:48 あの者をこのまま放っておけば、すべての人があの者を信じるようになる。そうなると、ローマ人がやって来て、われわれの土地も国民も取り上げてしまうだろう。」

11:49 しかし、彼らのうちの一人で、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。「あなたがたは何も分かっていない。」

11:50 一人の人が民に代わって死んで、国民全体が減びないですむほうが、自分たちにとって得策だということを、考えてもいない。」

11:51 このことは、彼が自分から言ったのではなかった。彼はその年の大祭司であったので、イエスが国民のために死のうとしておられること、

11:52 また、ただ国民のためだけでなく、散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである。

11:53 その日以来、彼らはイエスを殺そうと企んだ。

11:54 そのために、イエスはもはやユダヤ人たちの間を公然と歩くことをせず、そこから



荒野に近い地方に去って、エフライムという町に入り、弟子たちとともにそこに滞在された。

11:55 さて、ユダヤ人の過越の祭りが近づいた。多くの人々が、身を清めるため、過越の祭りの前に地方からエルサレムに上って来た。

11:56 彼らはイエスを捜し、宮の中に立って互いに話していた。「どう思うか。あの方は祭りに来られないのだろうか。」

11:57 祭司長たち、パリサイ人たちはイエスを捕らえるために、イエスがどこにいるかを知っている者は報告するように、という命令を出していた。

イエス様に多くの群衆がついていくと、イスラエルの権力バランスが崩れて、それをきっかけに抑えられていた群衆が蜂起するかもしれない…そうするとそれを口実にローマ軍が攻めて来て、イスラエルを滅ぼすかもしれないというのが、祭司長とパリサイ人の心配でした。そこでカヤパが言ったのは、そうなる前にイエスを殺そうということです。

彼の祭司長という役職は神から与えられていたので、意図せず神の計画を預言したのです。これは神様に用いられたということですが、彼には何の功績もありません。その動機はむしろさばかれるべきものです。

このように私たちは神様によって立てられた働き人を尊重する必要があります。しかし、人が用いられたからといって、彼が常に正しくきよいとは限りません。ですから主に用いられる人は謙遜でなければなりません。

イエス様の立場はどんどん危うくなってきますが、それは大いなるご計画の進展であり、神様の大きい知恵ゆえに、人にはまだ理解できないものでした。常に今起きていることの先に神様のす

ばらしいご計画の進展があることを期待しましょう。そして主のみこころを求めて、教えていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 12日 水曜

ヨハネ



12:1 さて、イエスは過越の祭りの六日前にベタニアに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。

12:2 人々はイエスのために、そこに夕食を用意した。マルタは給仕し、ラザロは、イエスとともに食卓に着いていた人たちの中にいた。

12:3 一方マリアは、純粋で非常に高価なナルドの香油を一リトラ取って、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。

12:4 弟子の一人で、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った。

12:5 「どうして、この香油を三百デナリで売って、貧しい人々に施さなかったのか。」

12:6 彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心にかけていたからではなく、彼が盗人で、金入れを預かりながら、そこに入っているものを盗んでいたからであった。

12:7 イエスは言われた。「そのままさせておきなさい。マリアは、わたしの葬りの日のために、それを取っておいたのです。」

12:8 貧しい人々は、いつもあなたがたと一緒にいますが、わたしはいつも一緒にいるわけではありません。」

12:9 すると、大勢のユダヤ人の群衆が、そこにイエスがおられると知って、やって来た。イエスに会うためだけではなく、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロを見るためでもあった。

12:10 祭司長たちはラザロも殺そうと相談した。

12:11 彼のために多くのユダヤ人が去って行き、イエスを信じるようになったからである。

ユダには会計の才能がありましたが、それが誘惑にもなりました。人はときに、その才能が誘惑にもなりますから、気をつけなくてはなりません。特にユダは、お金を預かっていましたが、会計係りを自分の目的でやっていたから、結局「盗む」ようになってしまったのです。

彼は自分の悪を隠すために、善行を願っているようなことを言ったのでしょうか。しかしそれは偽善であったので、肝心なイエス様への愛が抜けてしまっていました。ですからマリアの愛の行為がわからなかったのです。

マリアはイエス様への純粋な愛から、出来る限りのことをしました。そのような行動はときには反対にあうこともあります。ひるむ必要はありません。主はその思いを知ってくださって、喜びまたほめてくださいます。敵をも愛するイエス様を愛してこそ、本当の意味で人を愛することができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 13日 木曜

ヨハネ



12:12 その翌日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞いて、

12:13 なつめ椰子の枝を持って迎えに出て行き、こう叫んだ。「ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。」

12:14 イエスはろばの子を見つけて、それに乗られた。次のように書かれているとおりで

ある。  
12:15 「恐れるな、娘シオン。見よ、あなたの王が来られる。ろばの子に乗って。」

12:16 これらのことは、初め弟子たちには分からなかった。しかし、イエスが栄光を受けられた後、これがイエスについて書かれていたことで、それを人々がイエスに行ったのだと、彼らは思い起こした。

12:17 さて、イエスがラザロを墓から呼び出して、死人の中からよみがえらせたときにイエスと一緒にいた群衆は、そのことを証しし続けていた。

12:18 群衆がイエスを出迎えたのは、イエスがこのしるしを行われたことを聞いたからであった。

12:19 それで、パリサイ人たちは互いに言った。「見てみなさい。何一つうまくいっていない。見なさい。世はこぞってあの人の後について行ってしまった。」

普通王がその権威と勝利を表すために、入城するときは決まって馬に乗っていました。ろばでは戦うことはできませんし、子ろばであればなおさらです。それは見方によってはこっけいにさえ映ったかもしれません。しかしそれこそがイエス様の偉大さを表

すものでした。主イエスは、馬による戦いという方法によってではなく、愛と平和によって勝利をもたらす方なのです。

それは十字架という尊い犠牲によってなされたものです。私たちも、敵でさえも愛する愛によって、また平和を作り出すことによって、この神さまから勝利をいただきましょう。また、必要ならば権威をいただきましょう。それは神の権威による勝利ですから、揺るぎないものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 14日 金曜

ヨハネ



12:20 さて、祭りで礼拝のために上って来た人々の中に、ギリシア人が何人かいた。

12:21 この人たちは、ガリラヤのベツサイダ出身のピリポのところに来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。

12:22 ピリポは行ってアンデレに話し、アンデレとピリポは行って、イエスに話した。

12:23 すると、イエスは彼らに答えられた。「人の子が栄光を受ける時が来ました。

12:24 まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。

12:25 自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世で自分のいのちを憎む者は、それを保って永遠のいのちに至ります。

12:26 わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいるところに、わたしに仕える者もいることになります。わたしに仕えるなら、父はその人を重んじてくださいます。」

12:27 「今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ、この時からわたしをお救いください』と言おうか。いや、このためにこそ、わたしはこの時に至ったのだ。

12:28 父よ、御名の栄光を現してください。」すると、天から声が聞こえた。「わたしはすでに栄光を現した。わたしは再び栄光を現そう。」

12:29 そばに立っていてそれを聞いた群衆は、「雷が鳴ったのだ」と言った。ほかの人々は、「御使いがあの方に話しかけたのだ」と言っ

た。

12:30 イエスは答えられた。「この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためです。

12:31 今、この世に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者が追い出されます。12:32 わたしが地上から上げられるとき、わたしはすべての人を自分のもとに引き寄せます。」

12:33 これは、ご自分がどのような死に方で死ぬことになるかを示して、言われたのである。

12:34 そこで、群衆はイエスに答えた。「私たちは律法によって、キリストはいつまでも生きると聞きましたが、あなたはどのように、人の子は上げられなければならないと言われるのですか。その人の子とはだれですか。」

12:35 そこで、イエスは彼らに言われた。「もうしばらく、光はあなたがたの間にあります。闇があなたがたを襲うことがないように、あなたがたは光があるうちに歩きなさい。闇の中を歩く者は、自分がどこに行くのか分かりません。

12:36 自分に光があるうちに、光の子どもになれるように、光を信じなさい。」イエスは、これらのことを話すと、立ち去って彼らから身を隠された。

ギリシャ人でさえイエス様を受け入れようとしていました。そして、それは成功への誘惑にもなることでした。このまま彼らの先生として活動すれば、楽に教えを広められるでしょう。そのようなときにイエス様は苦難の道を歩むべく、決心を新たにします。

そしてご自身が死ぬことと、ご自身の弟子となるべきことを表されてのです。弟子たちの将来を思つてのことでした。そして天の父はイエス様を励ますべく、御声を表されたのです。

主のために、その使命を果たすように決心した者を、主は励まし栄光を表してくださいませ。主の栄光を表すための決心をしましよ。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 15日 土曜

ヨハネ

12:37 イエスがこれほど多くのしるしを彼らの目の前で行われたのに、彼らはイエスを信じなかった。

12:38 それは、預言者イザヤのことばが成就するためであった。彼はこう言っている。

「主よ。私たちが聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕はだれに現れたか。」

12:39 イザヤはまた次のように言っているの、彼らは信じるができなかったのである。

12:40 「主は彼らの目を見えないようにされた。また、彼らの心を頑なにされた。彼らがその目で見ることも、心で理解することも、立ち返ることもないように。そして、わたしが彼らを癒やすこともないように。」

12:41 イザヤがこう言ったのは、イエスの栄光を見たからであり、イエスについて語ったのである。

12:42 しかし、それにもかかわらず、議員たちの中にもイエスを信じた者が多くいた。ただ、会堂から追放されないように、パリサイ人たちを気にして、告白しなかった。

12:43 彼らは、神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛したのである。

12:44 イエスは大きな声でこう言われた。

「わたしを信じる者は、わたしではなく、わたしを遣わされた方を信じるのです。」

12:45 また、わたしを見る者は、わたしを遣わされた方を見るのです。

12:46 わたしは光として世に来ました。わたしを信じる者が、だれも闇の中にとどまることのないようにするためです。

12:47 だれか、わたしのことばを聞いてそれ



を守らない者がいても、わたしはその人をさばきません。わたしが来たのは世をさばくためではなく、世を救うためだからです。

12:48 わたしを拒み、わたしのことばを受け入れない者には、その人をさばくものがあります。わたしが話したことば、それが、終わりの日にその人をさばきます。

12:49 わたしは自分から話したのではなく、わたしを遣わされた父ご自身が、言うべきこと、話すべきことを、わたしにお命じになったのだからです。

12:50 わたしは、父の命令が永遠のいのちであることを知っています。ですから、わたしが話していることは、父がわたしに言われたとおりを、そのまま話しているのです。」

預言者は神のみこころを記しますから、「預言者イザヤのことばが成就するため」とは、すなわち神のみこころが成就するためということです。

ちなみに「主は…頑なにされた。」ということばからすると、人間の不従順は神が原因のようですが、そうではありません。ユダヤでは全てのことは神の主権によって起こるのだという信仰理解があったからで、実際には主がそれを許容なさったということです。

それはイエス様が謙遜な救い主であって、人を無理強いして入信させるような方ではないからです。まさにそれがイエスの栄光でありました。人を導くときは、その人に聖霊が働いてくださることを求めつつ、内側から変えられることを願いましょう。

信じても人を恐れて告白しない者がいたことは残念ですが、今でもそういう人はいるでしょう。そのような人の信仰成長は難しく、恵に生きることはできません。神の栄誉を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 16日 日曜

ヨハネ



13:1 さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。

13:2 夕食の間のこと、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうという思いを入れていた。

13:3 イエスは、父が万物をご自分の手に委ねてくださったこと、またご自分が神から出て、神に帰ろうとしていることを知っておられた。

13:4 イエスは夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわせた。

13:5 それから、たらいに水を入れて、弟子たちの足を洗い、腰にまもっていた手ぬぐいでふき始められた。

13:6 こうして、イエスがシモン・ペテロのところに来られると、ペテロはイエスに言った。「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか。」

13:7 イエスは彼に答えられた。「わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるようになります。」

13:8 ペテロはイエスに言った。「決して私の足を洗わないでください。」イエスは答えられた。「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります。」

13:9 シモン・ペテロは言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください。」

13:10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよいのです。あなたがたはきよいのですが、皆がきよいわけではありません。」

13:11 イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「皆がきよいわけではない」と言われたのである。

足を洗うとは当時は奴隷の仕事でした。イエス様は愛を表し、またご自身が仕えるために地上に来られたことを表すために、進んでそのことをされました。全能であり絶対的な権威を持ったお方が、今も私たちを愛するゆえに、奴隷のようにみわざをなさっておられるという、この驚くべき事実に感謝しましょう。

ペテロはイエス様に奴隷の仕事をさせるのを申し訳なく思い、「洗わないでください」と言いましたが、それでは「何の関係もない」と、イエス様は言われました。このことから分るのは、もしも私たち不完全な人間が、何か善行をしたことによって神様と交わってもらえると思うならそれは不可能な話だということです。実際は罪を哀れんでいただいて洗っていただくところから、交わりが始まるのです。そのような自分であることを忘れて高慢にならないように気をつけましょう。安心して主に洗っていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

